

令和9年度 橋渡し研究プログラム「シーズH」公募説明

九州大学拠点

九州大学 生命科学革新実現化拠点 橋渡し研究推進部門

九州大学病院 ARO次世代医療センター



KYUSHU UNIVERSITY

- I. 令和9年度橋渡し研究プログラム「シーズH」公募説明
- II. 採択後の支援内容、ステップアップ

橋渡し研究プログラムの概要

2



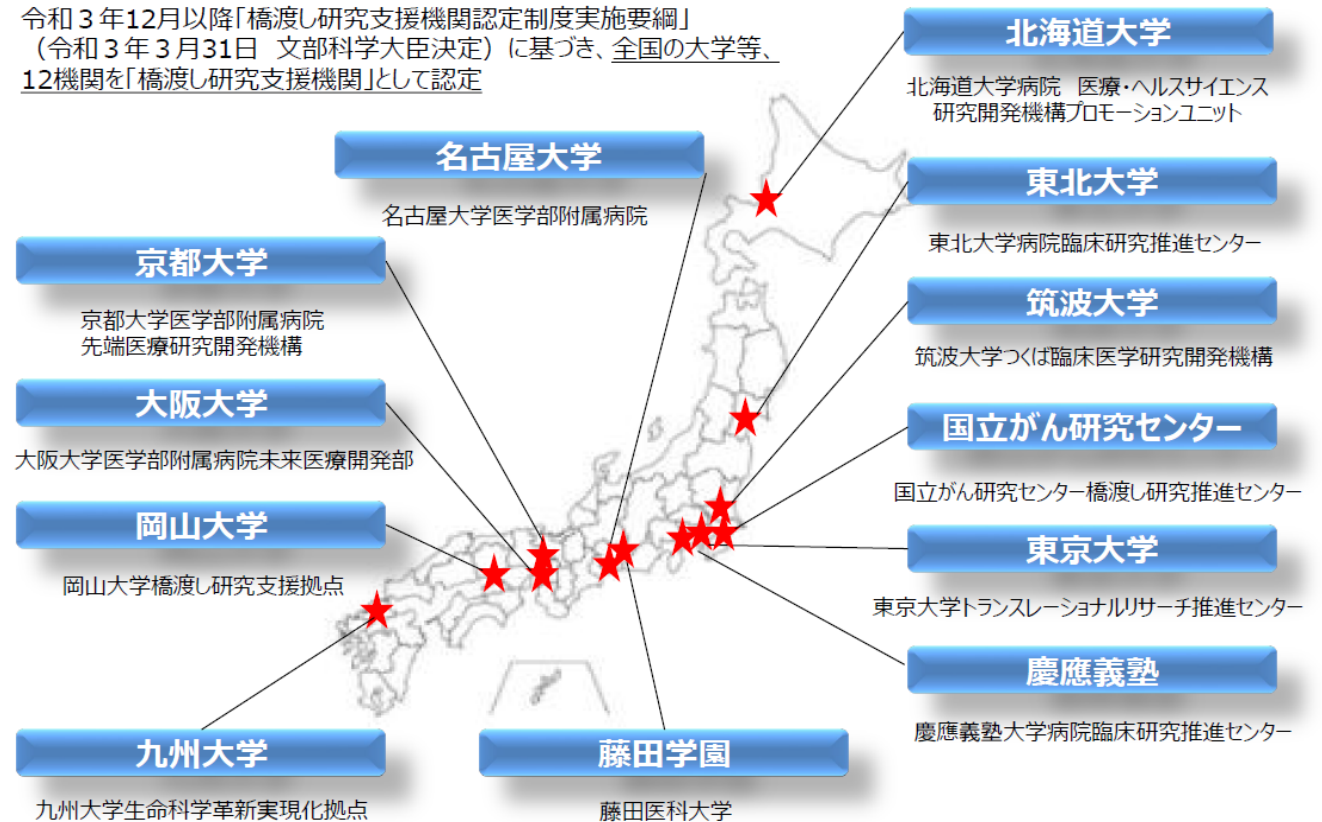
橋渡し研究支援機関（R7.4.7現在）



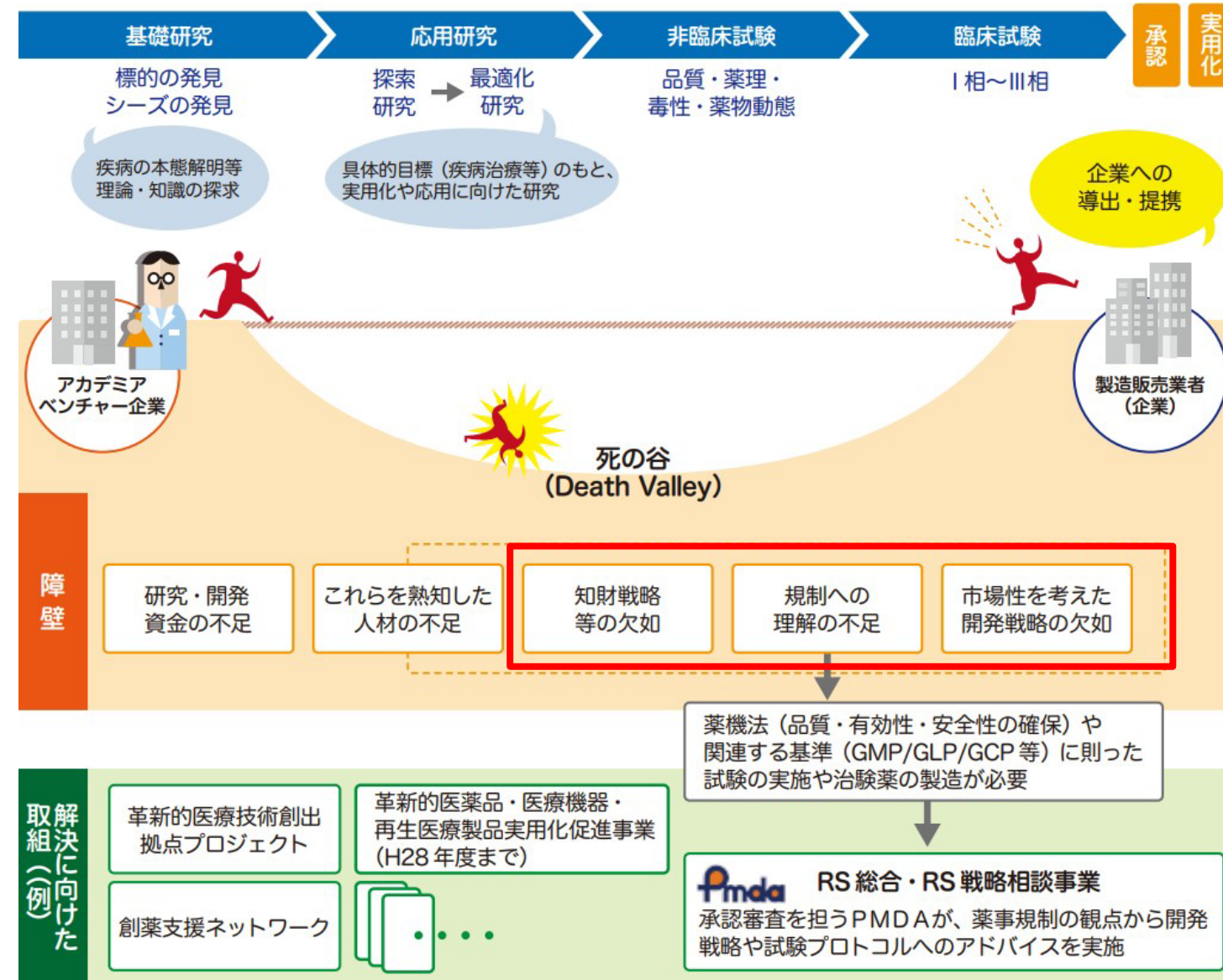
*橋渡し研究プログラムでは橋渡し研究支援機関を活用し、アカデミア等の優れた**基礎研究の成果**を臨床研究・実用化へ効率的に**橋渡しする**ために研究費等の支援を行い、革新的な医薬品・医療機器等の創出を目指しています。

出典：<https://www.amed.go.jp/program/list/16/01/012.html>

令和3年12月以降「橋渡し研究支援機関認定制度実施要綱」（令和3年3月31日 文部科学大臣決定）に基づき、全国の大学等、12機関を「橋渡し研究支援機関」として認定



文科省認定 全国12拠点



医療に関わる研究を支援して、実用化に結びつける

基礎	製剤開発	非臨床試験	臨床試験
特許戦略策定・申請	薬理試験の計画	治験薬製造業者/治験薬提供者の選定・契約	試験デザイン策定・実施計画書作成
企業連携・共同研究	薬物動態試験の計画	企業との契約	試験物 (治験薬) の調達・管理
	毒性試験の計画	分子細胞調製センター (MCPC) の利用	プロジェクトマネジメント
	医療機器関連試験	検査部安全管理ユニット (SIU) の利用	CROとの契約・業務管理
			治験調整委員会設置・運営
			効果安全性評価委員会設置・運営
			ライティング (治験薬概要書/総括報告書)
			その他文書作成
			被験者登録
			モニタリング
			安全性情報管理
			監査
			CRC
			実施施設選定・交渉
			データマネジメント
			割付
			統計解析

全般：薬事戦略策定 (PMDA RS戦略相談)

橋渡し研究支援機関

臨床研究中核病院

- 薬事支援
- 研究者教育
- 知財コンサルト
- 企業導出
- ベンチャー支援
- 行政機関連携
- 国際連携

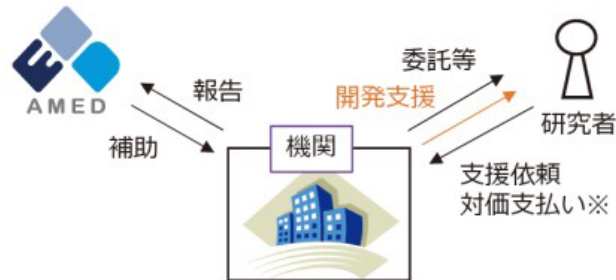
橋渡し研究プログラムの概要

4

フェーズに応じた戦略的シーズ開発

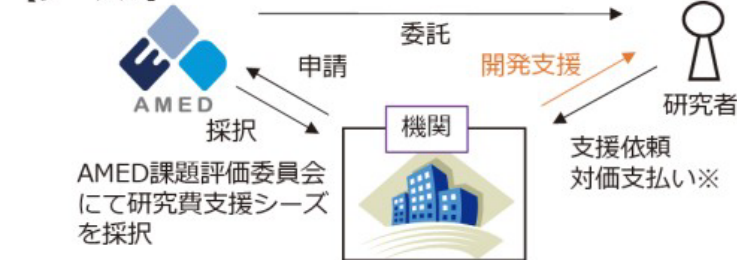
◆Early phase：基礎～応用

【異分野】 機関内外の支援依頼シーズについて、
【シーズA】 機関内の評価委員会の判定に基づき
機関の裁量で研究費を配分



◆Late phase（応用～臨床、産学協働）

【preF】 機関内外からの支援依頼シーズのうち、研究費支援を
【シーズF】 希望するシーズについて、機関がAMEDに支援候補
【シーズB】 シーズとして申請
【シーズC】



※橋渡し研究支援機関は医療実用化のための開発支援を行い、研究者は受給した研究費から支援に対する対価を支払う仕組みになっています。

基礎研究

- ・ **シーズA** 2年間
- ・ **シーズH**（医歯薬以外） 1年間
開発コンセプト、原理・作用機序確認
特許出願

応用研究

- ・ **PreF** 2年間
仕様決定、化合物最適化、品質規格
投与経路、用法用量、投与期間

非臨床研究

- ・ **シーズB** 3年間
毒性試験（医薬品・医療機器）
性能試験（体外診断用医薬品）

臨床研究・治験

- ・ **シーズC** 4年間
治験実施体制整備、治験実施

基礎研究

応用研究

非臨床研究

臨床研究・治験

シーズA

特許取得等を目指す課題を
橋渡し研究支援機関が主体と
なって発掘・育成
（橋渡し研究支援機関の
シーズの目利き）

preF

非臨床POC取得に
必要な試験パッケージの
策定を目指す課題

シーズF

企業との連携推進を義務化し、企業からのコミットメントを求め、
実用化の加速のための産学協働でPOC取得を目指す課題

シーズB

非臨床POC取得を
目指す課題

シーズC

臨床POC取得を
目指す課題

異分野融合型研究開発推進支援事業

非医療分野の技術移転と
医療応用のための人材育成を実施する課題
橋渡し研究支援機関（5機関）

シーズH(医歯薬以外を対象)

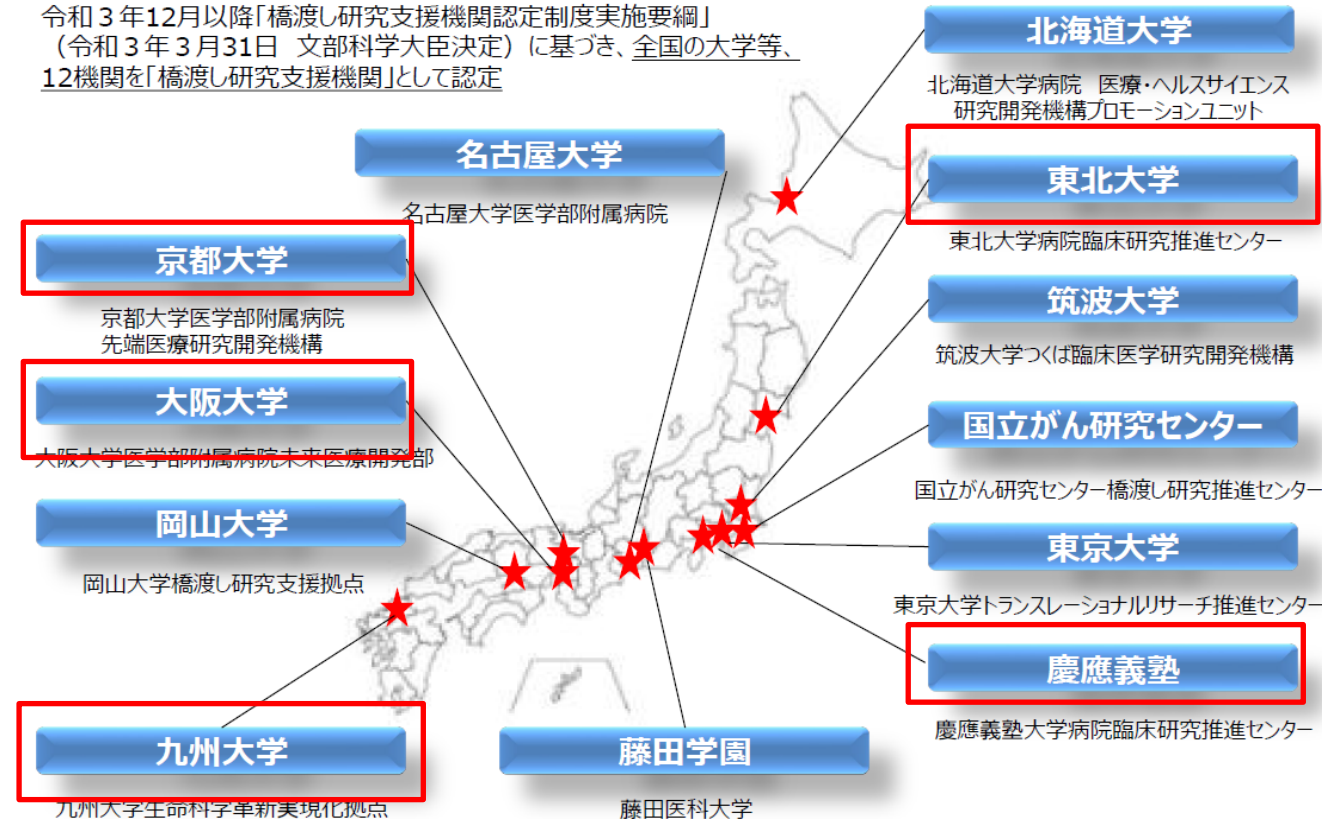
POC = Proof of Concept：概念実証
有効性+安全性の立証

第3期異分野事業：5拠点

橋渡し研究支援機関（R7.4.7現在）



令和3年12月以降「橋渡し研究支援機関認定制度実施要綱」
（令和3年3月31日 文部科学大臣決定）に基づき、全国の大学等、
12機関を「橋渡し研究支援機関」として認定



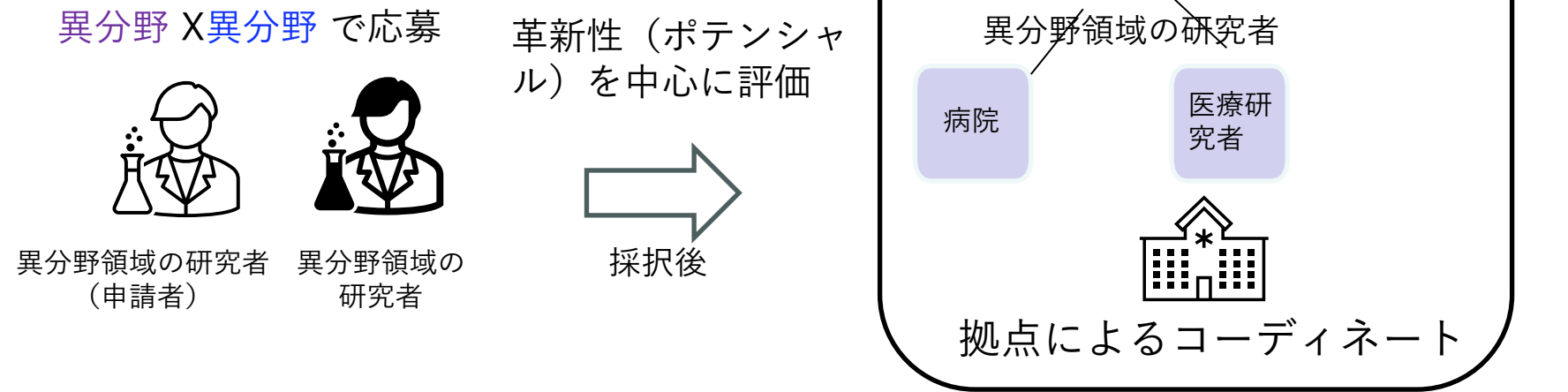
文科省認定 全国12拠点

公募枠	研究費（年間） ※間接経費を含む	支援期間	採択 予定数
一般※	上限200万円	令和9年4月1日 ～ 令和10年3月31日	7課題 程度
共創※※	上限500万円	令和9年4月1日 ～ 令和10年3月31日	0～ 2 課 題程度

※一般枠の選考で不採択となった課題の中で研究データの補完等により進捗が期待されるような課題を[開拓課題](#)として選ぶ場合があります（最大3課題）。年間上限100万円程度を予定。

※※原則、関連性の薄い異分野領域の研究者同士が共同で研究提案をしていただきます。詳細は「3. 共創枠について」を参照ください。

- ・同一課題での一般枠と共創枠への重複応募は不可といたします。
- ・採択等件数によって、実際の研究開発費は変更の可能性があります。
- ・特許出願に係る費用は所属大学の予算、または配分研究費（間接経費）から支出していただくことになります。



関連性の薄い異分野領域の研究者同士が共同で研究提案

・詳細は、募集要項「3. 共創枠について」を参照

採択後：医療現場視察やステークホルダーとの議論を通して取り組む内容を適宜修正

（最大500万円/年間）

一般枠：異分野領域（医歯薬系以外）の技術を医療応用に向けて研究開発を進めていただきます。

共創枠：研究開発代表者（異分野領域研究者）の持つ技術と別の異分野領域の研究者の技術を融合させ、革新的な医療シーズの創出を試みます。

【対象】

下記の条件をすべて満たす課題

- ・大学等アカデミア発の研究成果によるシーズであること。
- ・研究開発代表者が原則、医学・歯学・薬学系以外の所属であること。

公募対象に該当するかご不明な方は
「個別相談会」にお申し込みください！

※「医工学」等の融合組織の所属者も応募可能であるが、代表者が研究開発だけでなく医療にも従事している場合は応募前に拠点に確認のこと。

※研究分担者および協力者は医学・歯学・薬学系所属であっても差し支えない。

※民間企業等のアカデミア研究機関以外に所属の研究者が研究代表者となる場合は、応募前に拠点に確認のこと。

- ・知財化を目指す開発早期のシーズであること。

【求められる成果】

- ・シーズA等へのステージアップや実用化に関するAMED他事業への応募
- ・導出/共同研究/実用化に向けた企業との議論の開始
- ・関連特許出願（支援期間後を含む）

【公募（提案書受付）期間】

- ・令和8年11月2日（月）～令和8年12月7日（月）

評価項目	評価ポイント
事業該当性	事業趣旨・目的(医歯薬系以外の技術/知識を活用し医療イノベーションの推進)に合致しているか
ニーズの有無	ニーズ(医療ニーズ、社会ニーズ)はあるか
知財化の可能性	新規性が見込めるか
実用化可能性	既存技術・治療に対する優位性は明確か
革新性	当該研究・開発が行われることにより既存医療技術を変革させうるか
計画の妥当性・実施体制	・研究開発目的に対する計画が妥当であるか ・実施体制は適切か(医療研究者との連携は採択後でも良い)
実施可能性	開発実現性の根拠、予備的データはあるか

<R7年度公募>

応募枠別(一般/共創)

	応募課題数	採択課題数	採択率
一般	39	12	31%
共創	5	1	20%

研究者代表所属別

	応募課題数	採択課題数	採択率
九大	13	5	38%
学外施設	31	8	26%
合計	44	13	30%

R7年度共創枠採択課題

異分野領域の研究者1
生体と折り紙工学

X

異分野領域の研究者2
柔軟材料と変形・駆動

<R8年度公募>

応募枠別(一般/共創)

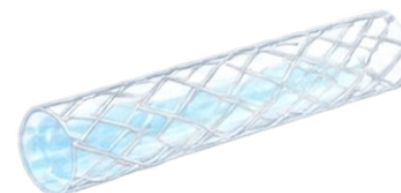
	応募課題数	採択課題数	採択率
一般	48	13	27%
共創	2	0	0%

研究者代表所属別

	応募課題数	採択課題数	採択率
九大	23	3	13%
学外施設	27	10	37%
合計	50	13	26%

□ □ u ≥ □ □ □ u

□ ā □ □ □ ū □ □ Ê Ô
□ □ □ □ ò □ ° T a ^ ẽ

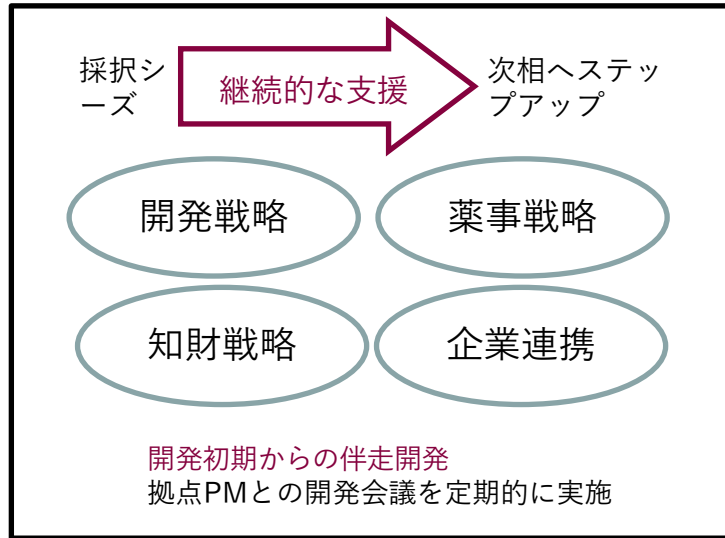


I. 令和8年度橋渡し研究プログラム「シーズH」公募説明

II. 採択後の支援内容、ステップアップ



開発支援



医療現場観察

飯塚メディコロボ

izuka medicolabo

izuka medicolaboとは イノベーション推進本部について

コロボから生まれる、明日の医療イノベーション。

医療現場視察の場を提供し異分野研究者の医療ニーズ理解を深める

企業連携支援

拠点独自の医療技術共創グラント等による共同研究実現へ向けた支援
企業からの評価コメントを研究者にフィードバックし、開発戦略に活用

医療技術共創グラント事業



- ・20社以上の製薬・医療機器メーカー、VCが参加
- ・400以上のシーズ紹介

研究者教育

異分野融合セミナー

令和9年度 異分野融合型研究シーズ公募説明会

2026 10/15

17:30-18:30

オンライン

セミナーのお申し込みはこちら

18:05-18:30 AMED連携し研究プログラム（シーズ）公開説明

お問い合わせ先 092-642-4802

九州大学 生命科学研究推進機構 異分野融合型研究推進センター

Translational Science&Medicine Training Program (TSMTP) 2026

参加費 無料

2026 8/29(土)/30(日)

九州大学 生命科学研究推進機構 異分野融合型研究推進センター

お問い合わせ先 092-642-4802

九州大学 生命科学研究推進機構 異分野融合型研究推進センター

ミニレクチャーシリーズ

「医療機器における保険適用制度と考え方」

山藤 由貴先生 Yuki Yamaguchi

MEGISO代表取締役 代理店経営 異分野融合型研究推進センター 異分野融合型研究推進センター

お問い合わせ先 092-642-4802

九州大学 生命科学研究推進機構 異分野融合型研究推進センター

第14回 TR推進合同フォーラム・ライフサイエンス技術交流会

～企業とアカデミアのパートナーシップに求められるもの～

2026 10.30 14:00-18:00

九州大学医学部 百年講堂

お問い合わせ先 092-642-4802

九州大学 生命科学研究推進機構 異分野融合型研究推進センター

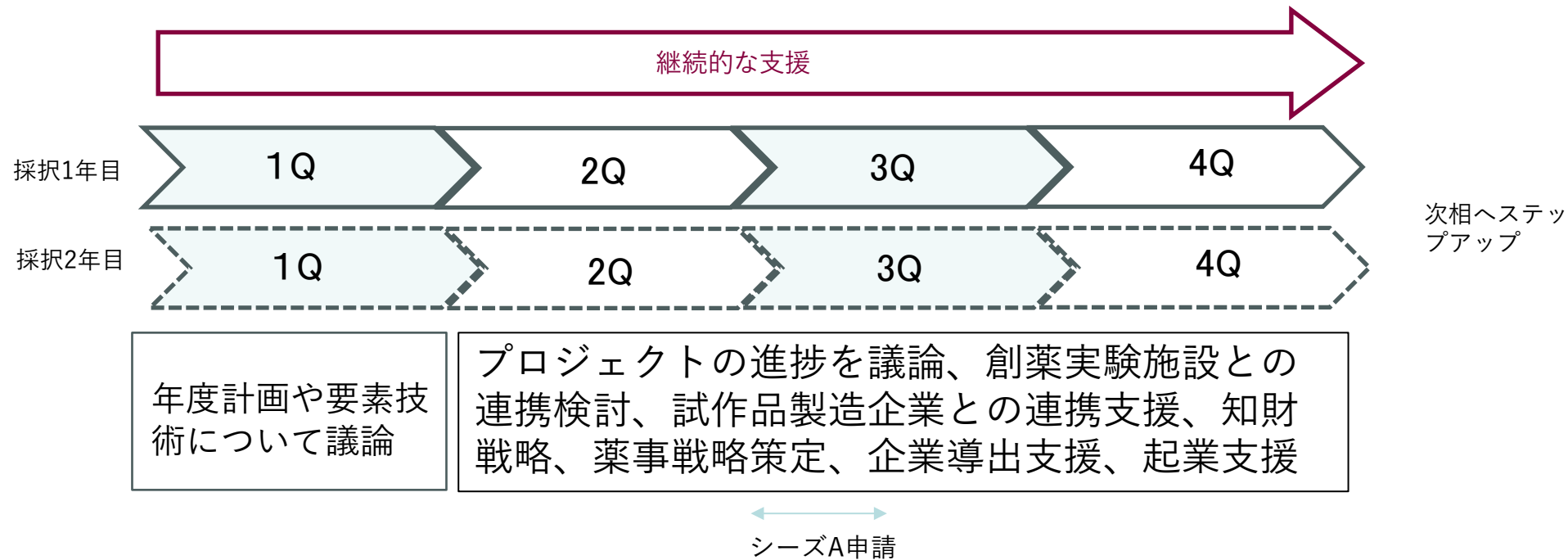
異分野融合型研究に参考となるセミナー

医薬品開発に必要な行程を網羅するレクチャーコース

医療機器保険に関するレクチャーシリーズ

企業とアカデミアシーズのマッチングを促進

開発初期からの伴走開発：拠点PMとの開発会議を定期的の実施



コラボから生まれる、明日の医療イノベーション。



過去実績(シーズH採択者による参加)

- ・R5年度:3件
- ・R6年度:1件
- ・R7年度:3件

iiizuka medicolabo® = 医療現場 観察プログラム

よりよい医療機器の開発をサポートし、医療の質を向上することを目的としています。“Patient First”を合い言葉に、医療機器・材料・システム・アプリの開発およびサービスの創出を目指す方々に医療現場を観察する機会を提供するプログラムです。

医療現場の実際の観察を通じて、医療についての理解を深めていただくとともに、事務局のイノベーション推進本部が現場ニーズの的確な把握をサポートします。



異分野融合により革新的医療シーズを共創し実用化を目指す

- ・ 異分野領域の研究者のユニークなアプローチ/技術を活用した提案を積極的に発掘、選定

- ・ これまでに医療応用の経験が少ない異分野領域の研究者を積極的に支援



発掘：共創枠（500万円/年、2件程度）を設定

異分野領域の研究者の技術シーズを融合させた提案を公募

選定

- 拠点内一次審査では総合評価点数とは別途、**異分野度**を評価。二次審査課題選考の際考慮

- 拠点の支援により進捗が期待されるような課題を**開拓課題**（100万円/年、3件）として選考

育成：異分野融合研究から実用化へ
実用化に向けた様々な支援を実施



- ・ 医歯薬系以外の様々な学部の研究者を支援



機械工学
Mechanical Eng.



人工知能・機械学習
AI / Machine Learning



水産学
Fisheries Science



デザイン
Design

九州大学



大学院芸術工学研究院
大学院芸術工学府
芸術工学部

九州大学



マス・フォア・インダストリ研究所



- ・ 英語での申請を受け付け、英語での支援が可能

- ・ 異分野事業とスタートアップ事業の両方に採択

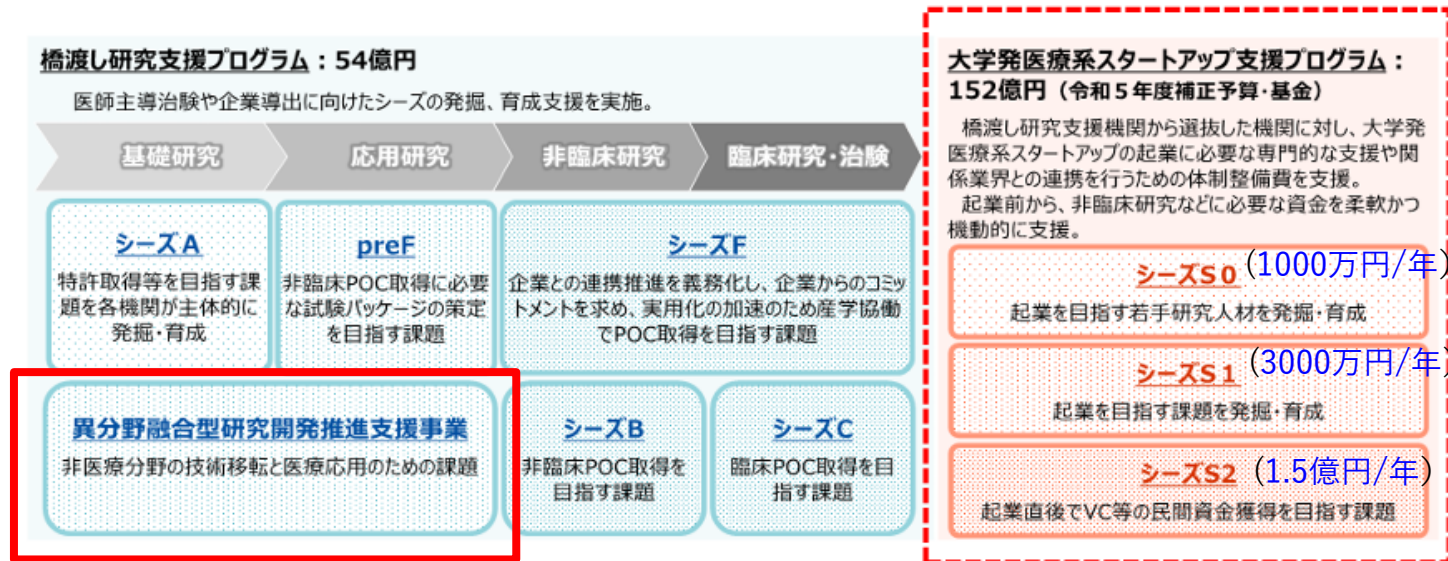
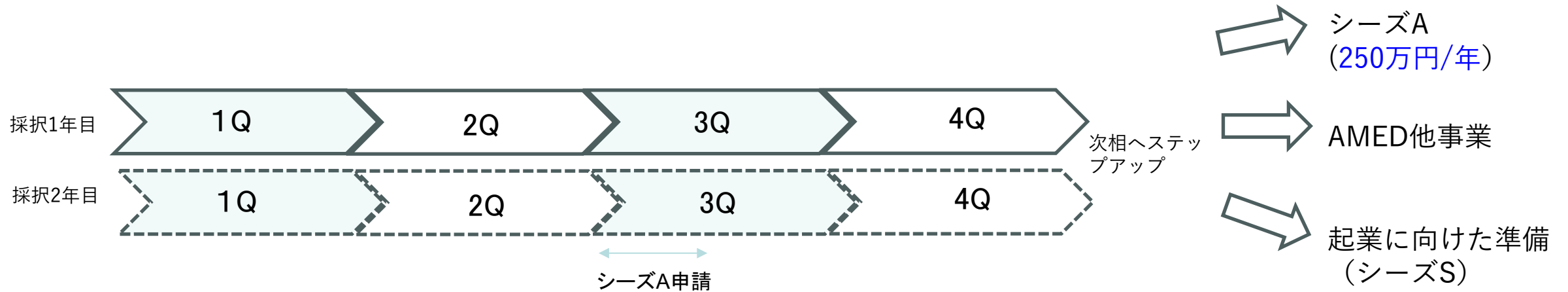
異分野領域の研究者のシーズを切れ目なく実用化に進めることが可能



異分野事業（青）・SU支援拠点（赤）の両方に採択

シーズH終了後のステップアップ

18



シーズH：異分野領域の技術シーズの医療分野への実用化に向けた入口

第2期事業（令和4年度～6年度）支援実績

シーズの状況	R4年度採択課題 (9シーズ採択)	R5年度採択課題 (11シーズ採択)	R6年度採択課題 (12シーズ採択)
次相（シーズA）への ステージアップ ※関連課題のステージアップを含む	6	6	4
AMED他事業*へ採択 (プラットフォーム技術)			1
関連課題がシーズS0採択		1	
関連特許出願済	2	4	3

*創薬基盤推進研究事業

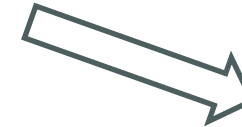
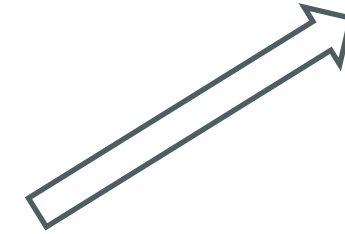
シーズH：異分野領域の技術シーズの医療分野への実用化に向けた入口

シーズH

医学・歯学・薬学系以外の先端技術・
知識を活用し医療応用を目指す

【期間】1年度

【支援額】一般枠 上限200万円/年間
共創枠 上限500万円/年間
開拓課題 上限100万円/年間



シーズA 特許出願

【期間】2年度

【支援額】

上限250万円/年間
※初年度のみ

AMED他事業

創業に向けて開発
を継続

大学発医療系スタートアップ支援プログラム：
152億円（令和5年度補正予算・基金）

橋渡し研究支援機関から選抜した機関に対し、大学発医療系スタートアップの起業に必要な専門的な支援や関係業界との連携を行うための体制整備費を支援。
起業前から、非臨床研究などに必要な資金を柔軟かつ機動的に支援。

シーズS0 (1000万円/年)

起業を目指す若手研究人材を発掘・育成

シーズS1 (3000万円/年)

起業を目指す課題を発掘・育成

シーズS2 (1.5億円/年)

起業直後でVC等の民間資金獲得を目指す課題

シーズS公募

九州大学

大学発医療系スタートアップ 支援プログラム

スタートアップを介して、医薬品・医療機器等の実用化を目指す課題を募集します

支援課題募集

シーズ区分	対象	支援額
シーズS1	スタートアップを介して医薬品・医療機器等の実用化を目指す課題を対象とし、臨床への応用を見据えた非臨床試験の実施、経営戦略を策定し、 <u>支援期間内に設置を実現する課題</u>	3,000万円 程度/年
シーズS2	アカデミア発の医薬品・医療機器等の実用化を目指す <u>起業直後のスタートアップ企業(国内企業)</u> を対象に、 <u>自走可能な民間資金を獲得するために必要な非臨床試験等の実施を目指す課題</u>	1.5億円 程度/年

支援期間 2027年4月1日～2029年3月31日

※SIについては1年目終了時にステージゲート審査があります

承認/認証を必要とする医薬品・医療機器等が対象となります

スケジュール

公募期間 11月2日(月)～11月30日(月)正午

書面審査 12月上旬 ～ 1月中旬

ヒアリング審査 2月上旬

採否通知 3月上旬

公募詳細

応募前相談を歓迎しています

公募内容の詳細については、QRコードへアクセスしてください。

お問合せ先

九州大学 生命科学革新実現化拠点
機微研究推進部門

092-642-4802/4553

nw-info@med.kyushu-u.ac.jp

来週前半までにアップロード予定

公募要領・申請書類
のダウンロード先 →

<https://www.aro.med.kyushu-u.ac.jp/hashiwatashi/>



【個別相談】

個別相談をご希望の方は、下記お問合せ先までご連絡ください。

お問合せ先

九州大学 生命科学革新実現化拠点
橋渡研究推進部門 (ARO)

E-Mail: nw-info@med.kyushu-u.ac.jp

Tel: 092-642-4802



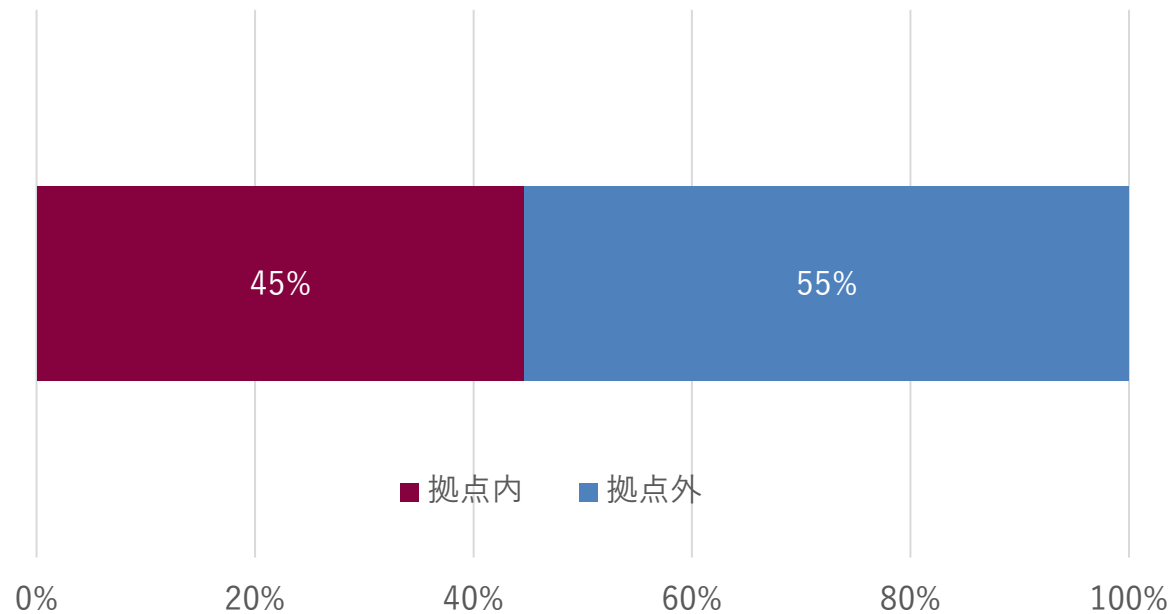


 総合知で社会変革を牽引する大学へ

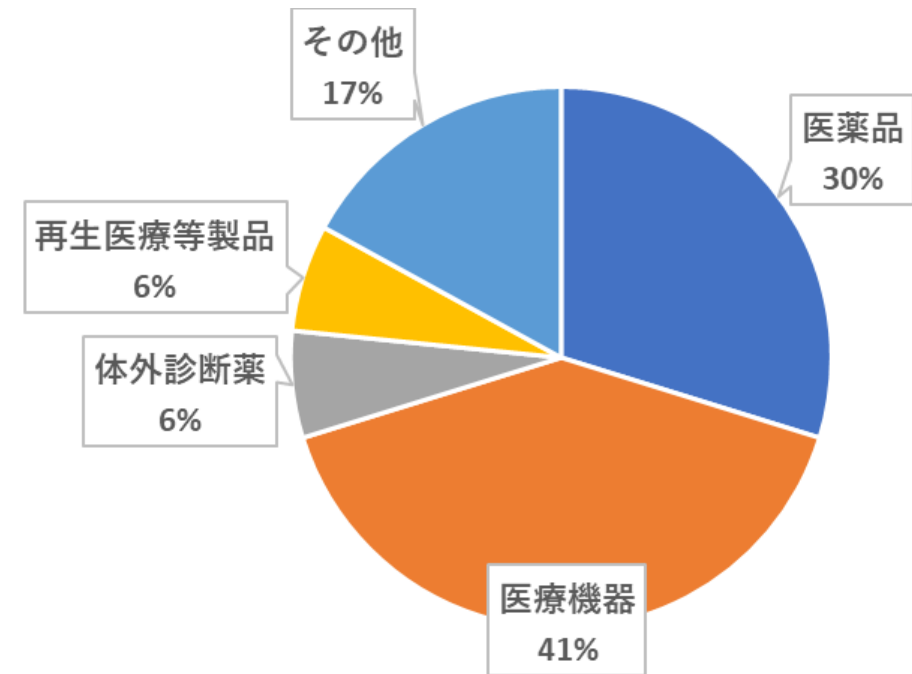
VISION 2030



拠点内・拠点外別



モダリティ別



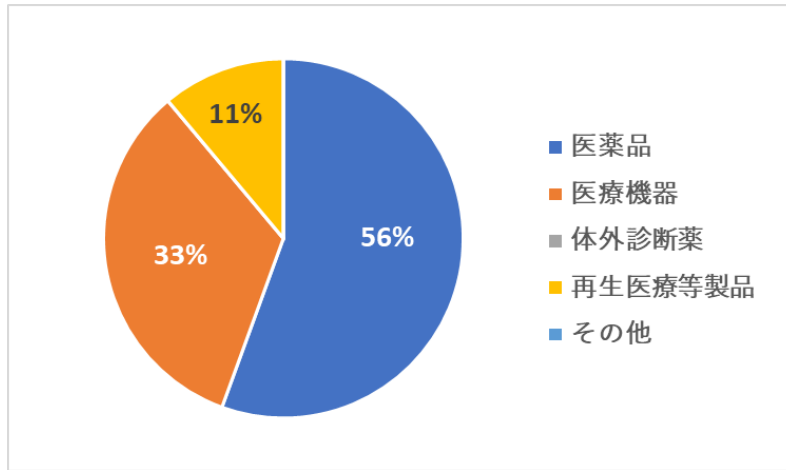
九州大学拠点外からのシーズ
支援の方が多い

< R4年度公募 >

研究者代表所属別

	応募課題数	採択課題数	採択率
九州大	11	3	27%
九州大以外	21	6	29%
合計	32	9	28%

採択課題モダリティー別

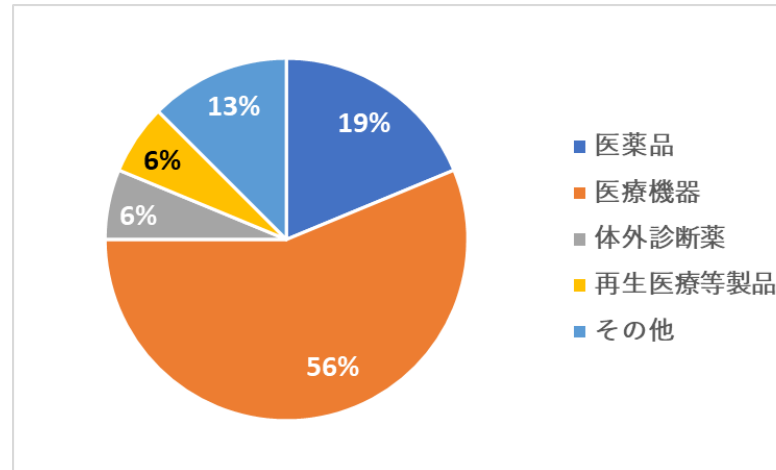


< R5年度公募 >

研究者代表所属別

	応募課題数	採択課題数	採択率
九州大	17	6	35%
九州大以外	26	10	38%
合計	43	16	37%

採択課題モダリティー別

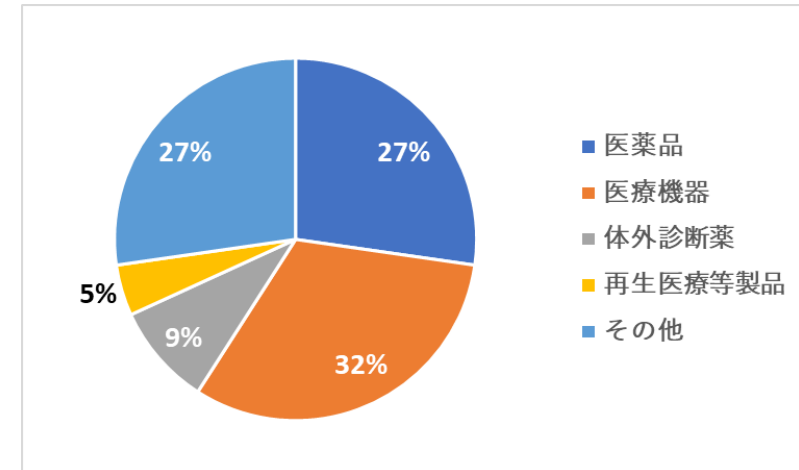


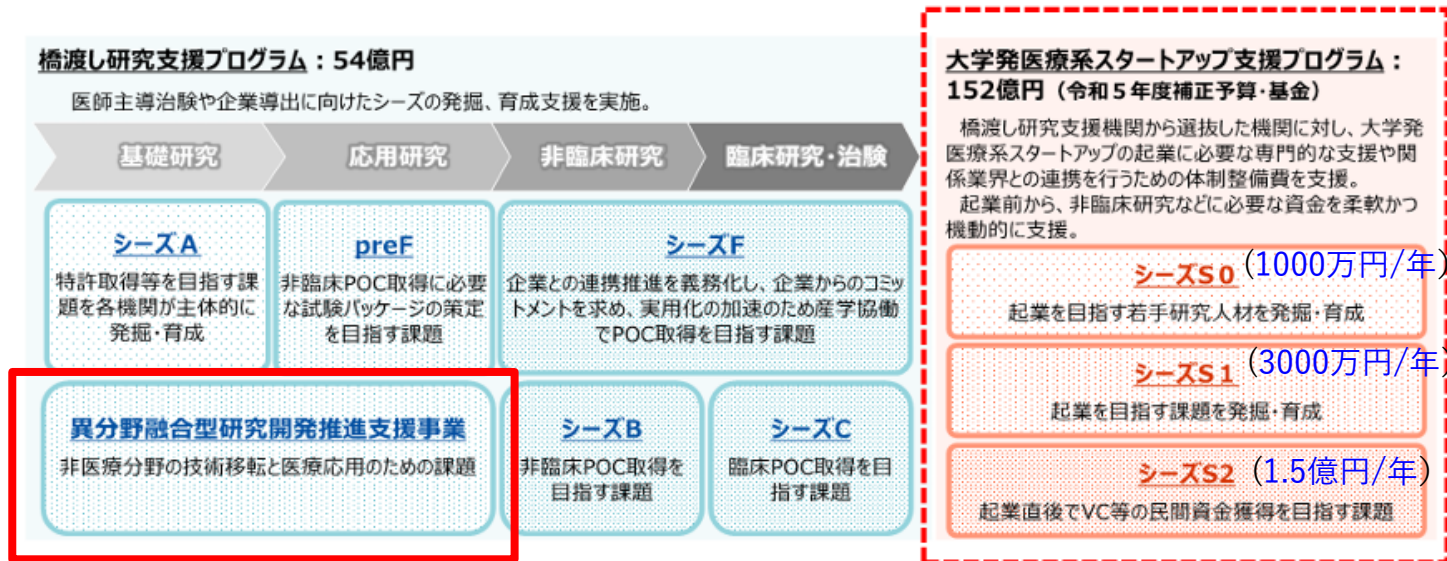
< R6年度公募 >

研究者代表所属別

	応募課題数	採択課題数	採択率
九州大	32	12	38%
九州大以外	32	10	31%
合計	64	22	34%

採択課題モダリティー別





シーズH：異分野領域の技術シーズの医療分野への実用化に向けた入口

医療技術共創グラントとは

九州大学病院ARO次世代医療センター／先端医療オープンイノベーションセンター（以下、九大ARO）が研究者と企業とのパートナーリングを推進することを目的に独自に企画・創設した事業です。

※ 2016年から開始された創薬共同研究グラント 公募支援事業の後継事業として位置づけています。

公募対象

特許出願・非臨床POC取得を目指す創薬・医療技術シーズ

医薬品、医療機器、再生医療等製品、体外診断用医薬品、基盤技術

【2023年度参画企業実績】

（順不同）

- ・第一三共（株）
- ・持田製薬（株）
- ・帝人ファーマ（株）
- ・マルホ（株）
- ・RDiscovery
- ・科研製薬（株）
- ・あすか製薬（株）
- ・アステラス製薬（株）
- ・ノーベルファーマ（株）

他5社

メリットと効果

研究者側メリット

- ◆シーズを育成できる
- ◆開発意識が高まる
- ◆企業（社会）ニーズを知れる
- ◆企業フィードバックを受けて、再度開発に向けた提案ができる

企業側メリット

- ◆アカデミア発のユニークなシーズをいち早く知れる
- ◆興味のあるシーズの開発状況をフォローできる
- ◆26大学から集まるシーズを一挙入手

期待される効果

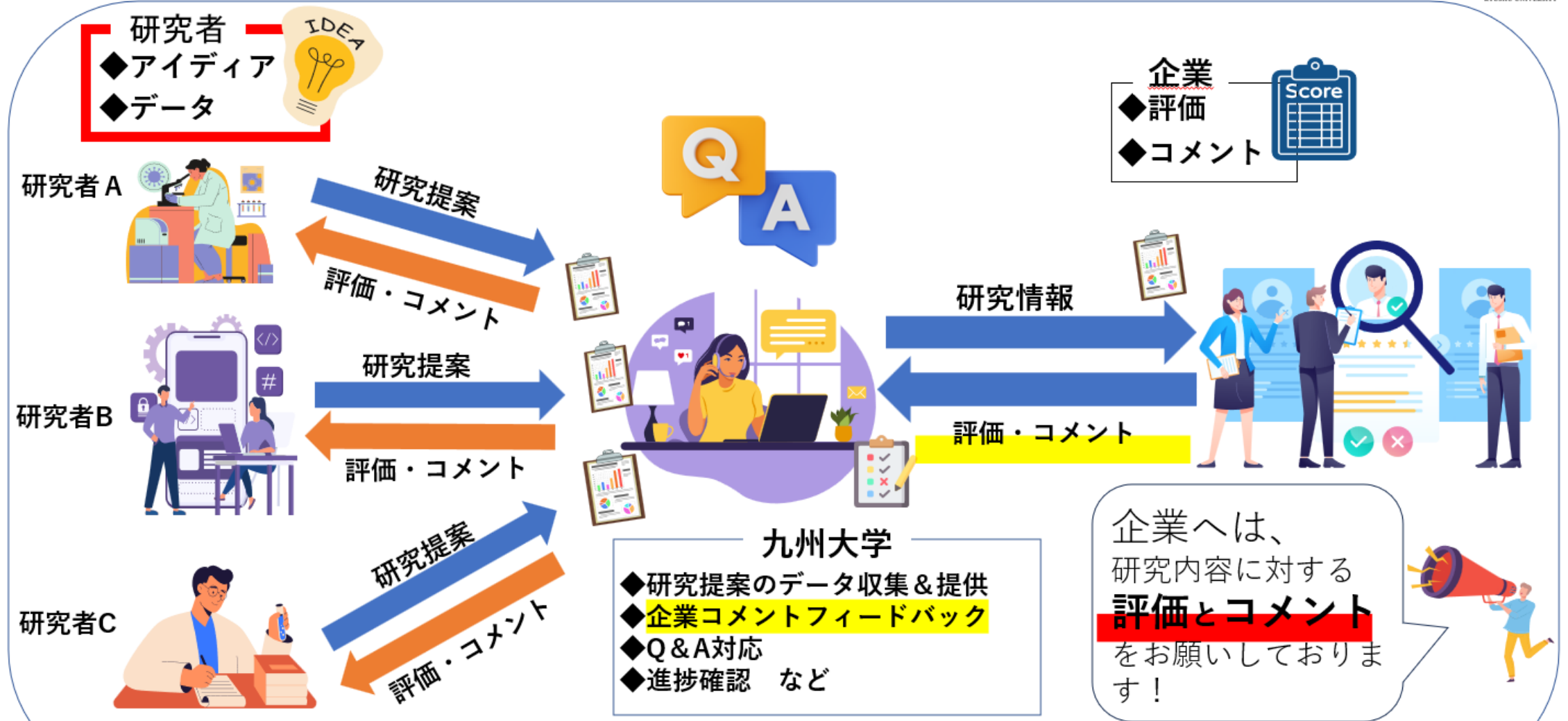
- 1.研究者にとって臨床開発へのモチベーションUP ↑
- 2.企業にとって最新試験を迅速に取得できる
- 3.産学間の共同研究を増加させる

企業と26大学の研究者をつなぐ九州大AROの包括的支援



本事業の全体図

複数の企業にアクセス可能



応募者名	所属大学名	部署	課題名	分類	モダリティ	対象疾患	競合品に対する優位性/特徴 200字以内	要約(ノンコンフィデンシャルレベルで作成) 300字以内	特許出願の有無

【本事業の流れ】

(1) 拠点が、応募研究課題の「タイトル」、「キーワード」、「要約」等をリスト化（「試験リスト」）し、参画企業に提示する。

※非開示情報など必要に応じて一部マスキングし提示いたします。

(2) 拠点が、申請者へ開示可能資料（秘密情報が含まれていない）の作成を予め依頼する。

（開示可能資料の作成方法につきましては、拠点よりテンプレートを提案し、作成支援します）。

(3) 拠点が、[応募研究課題に興味を持った参画企業に対して、開示可能資料（秘密情報が含まれていない）を提供する。](#)

※[参画企業が興味を持たなかった場合は、不採択となります。](#)

(4) 参画企業が応募書類を評価。

(5) 参画企業が共同研究を希望した場合、参画企業と申請者が面談を実施する。

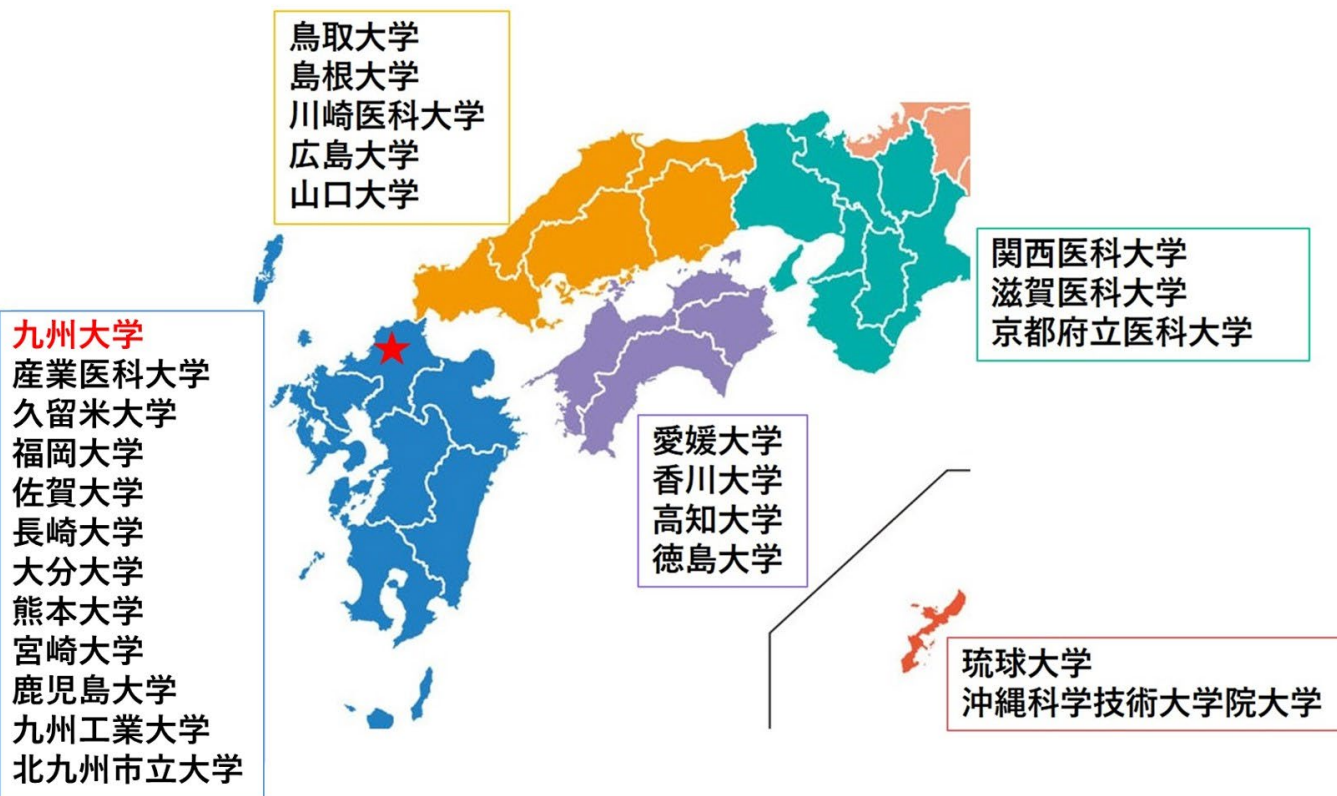
※面談に至らなかった場合、次回申請にむけたブラッシュアップのため、[参画企業からのコメントを申請者へ送付](#)します。

(6) [産学連携共同研究の成約。](#)

【申込方法】

応募フォーム（WAT-NeWウェブサイト内に設置）より、試験リスト（エクセル）を提出

西日本橋渡し研究ネットワーク (West Japan Academia Translational Research Network)

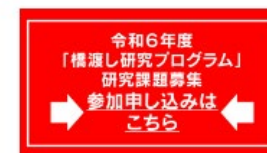


西日本橋渡し研究ネットワーク (West Japan Academia Translational Research Network)

English | プライバシーポリシー | 規約

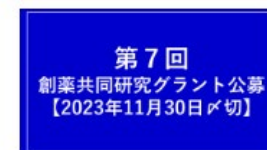
お問い合わせ

WAT-NeW



最新情報

→ 2023/08/01 令和6年度「橋渡し研究プログラム」研究公募





基礎研究

- ・ **シーズA** 2年間
- ・ **シーズH**（医歯薬以外） 1年間
開発コンセプト、原理・作用機序確認
特許出願

応用研究

- ・ **PreF** 2年間
仕様決定、化合物最適化、品質規格
投与経路、用法用量、投与期間

非臨床研究

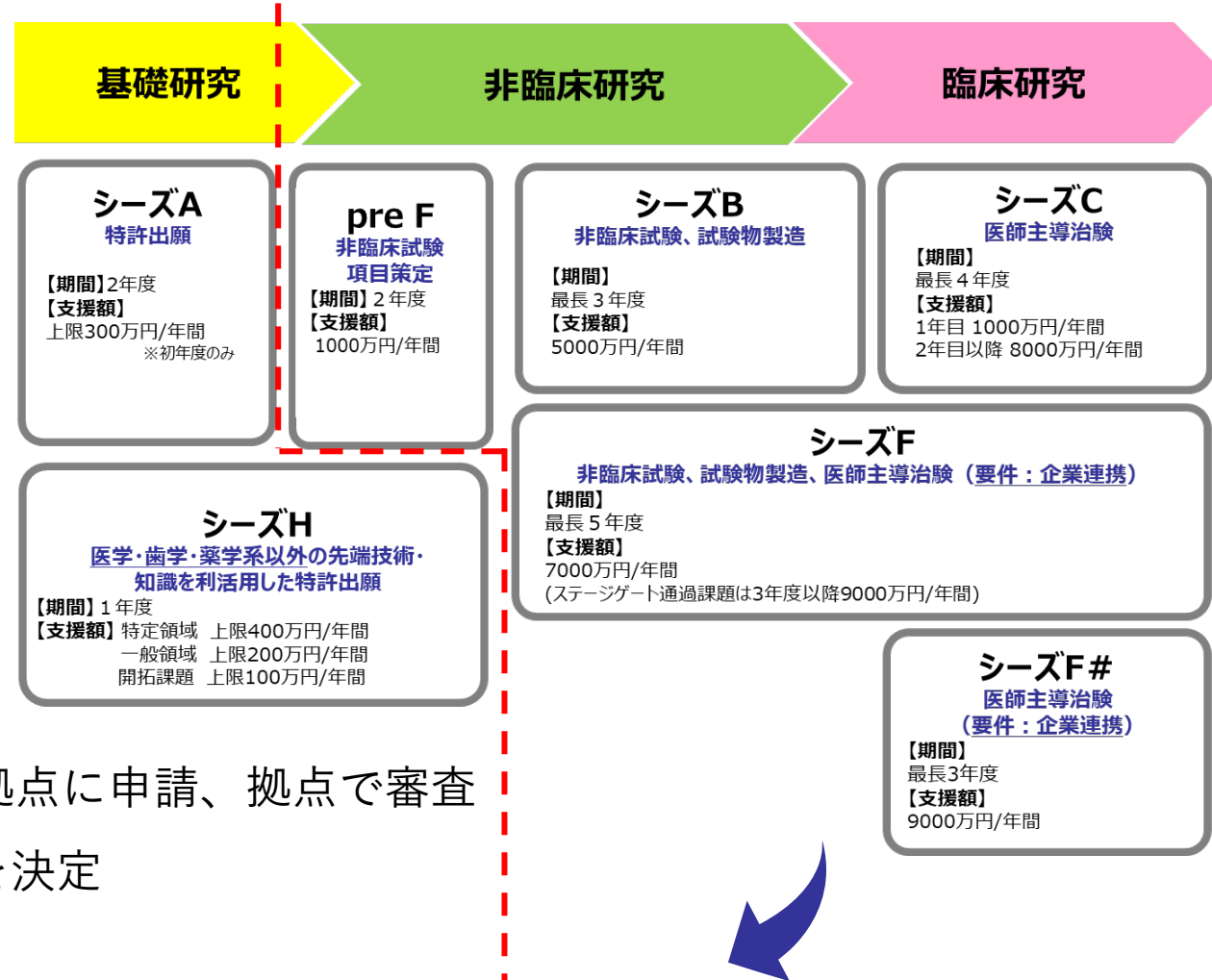
- ・ **シーズB** 3年間
毒性試験（医薬品・医療機器）
性能試験（体外診断用医薬品）

臨床研究・治験

- ・ **シーズC** 4年間
治験実施体制整備、治験実施

POC = Proof of Concept：概念実証
有効性+安全性の立証

ピンク箇所は拠点で審査、採択課題決定
それ以外は拠点でAMEDへの推薦課題を決定

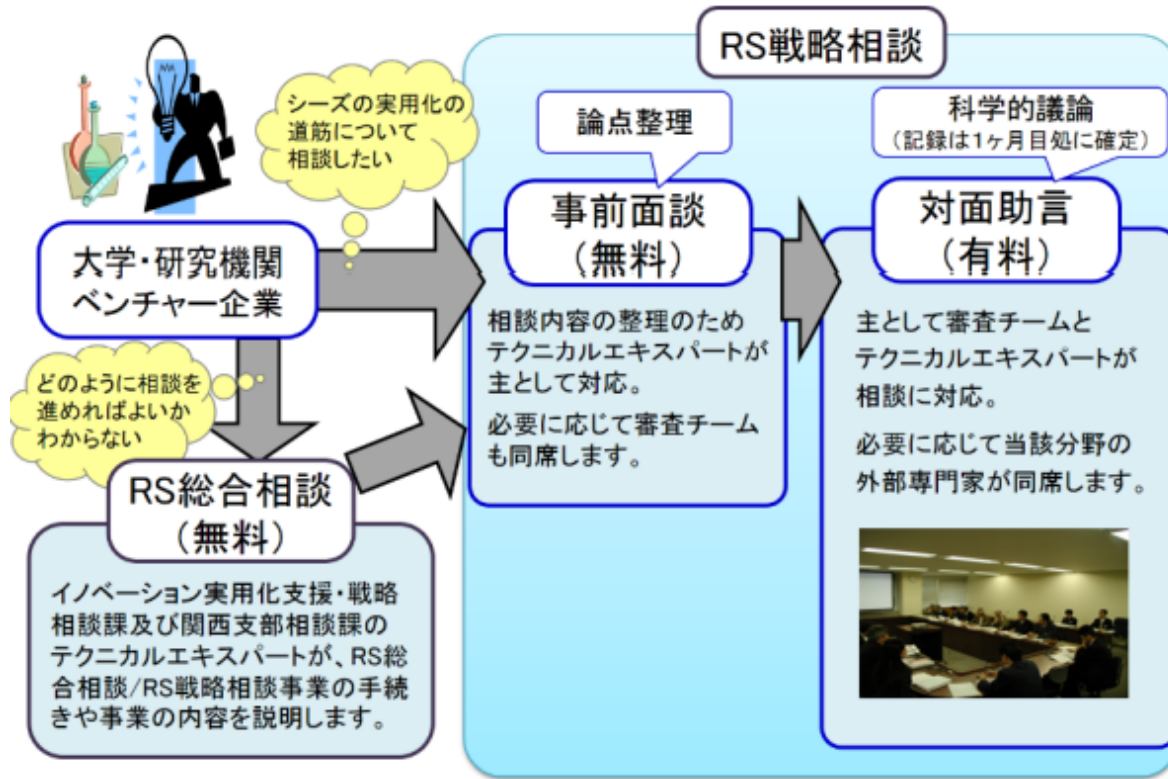


シーズAとシーズHは拠点に申請、拠点で審査

→ 拠点にて申請時期を決定

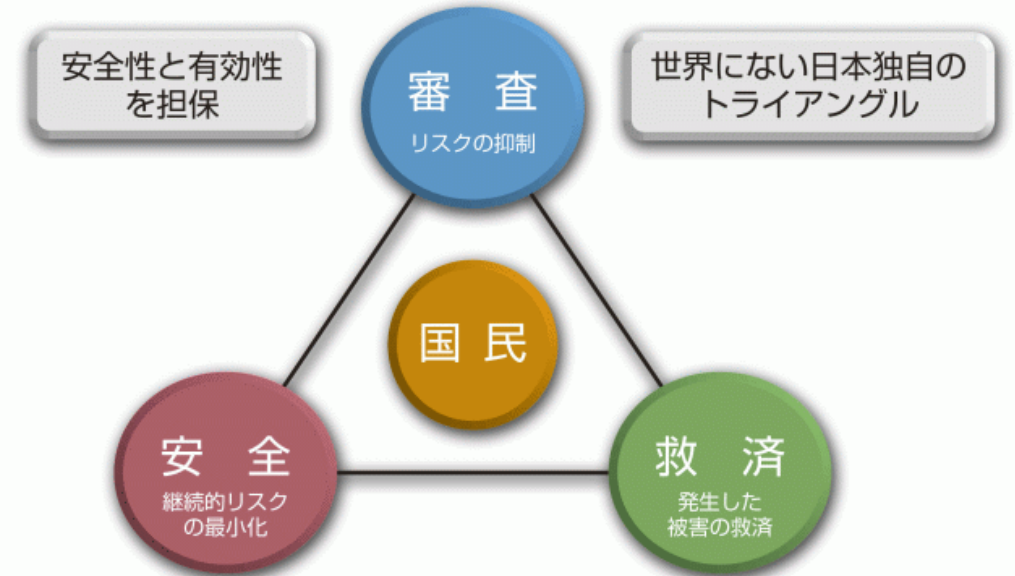
preF, シーズB/C/Fは拠点に申請、拠点で推薦課題決定後、AMEDに申請、AMEDで審査

→ 公募時期についてはAMED HPならびに拠点Webサイト (WAT-NeW) に掲載

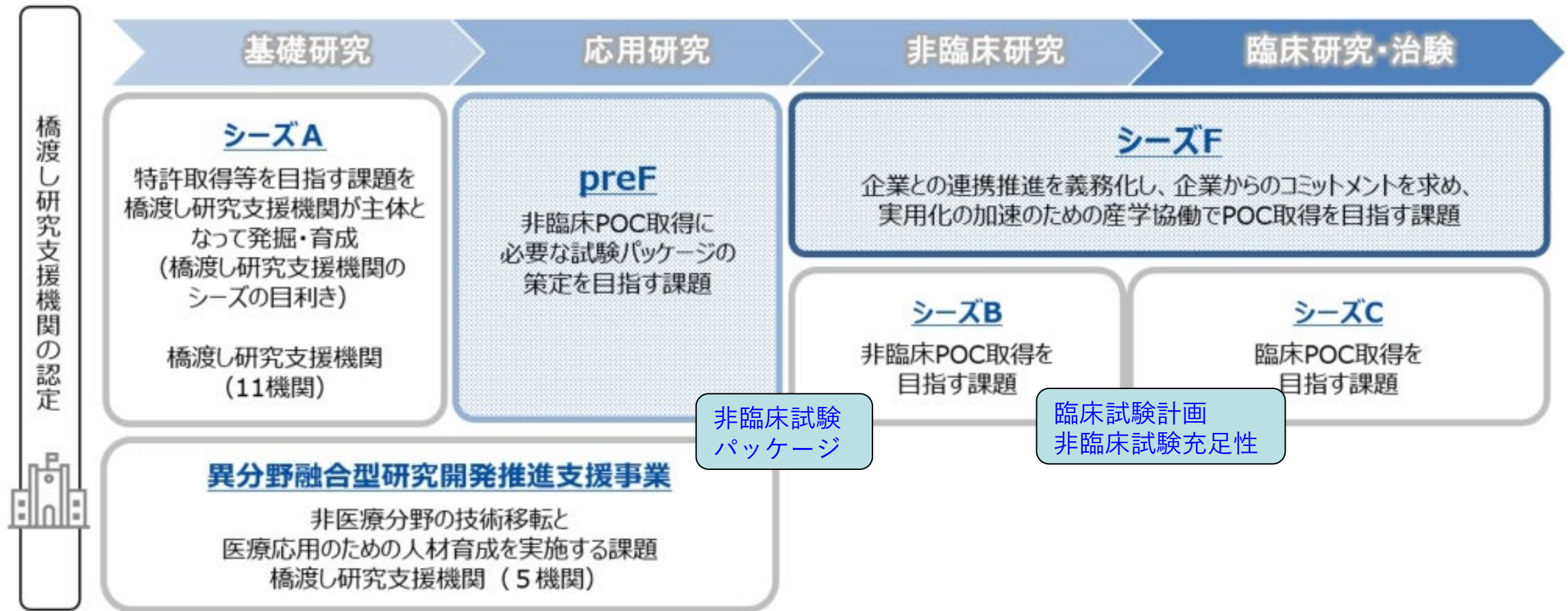


セーフティ・トライアングル ～3つの業務による総合的なリスクマネジメント～

PMDAは、医薬品などの健康被害救済、承認審査、安全対策の3つの役割を一体として行う世界で唯一の公的機関として、レギュラトリーサイエンスに基づき、より安全でより品質のよい製品をより早く医療現場に届け、医療水準の向上に貢献しています。



- 総合相談： 開発中の品目について、いつ、どのように PMDA に相談すればよいのか、資料を作成する上で基本的に参照すべき通知等はどのようなものか相談する。
- 事前面談： 効率的な対面助言の実施に向けて、相談事項の論点整理及びそれに必要な資料内容を確認する。
- 対面助言： 相談者から提出された資料を、担当審査部の審査チームが精査し、必要に応じて追加のデータや資料を提出した上で、各相談事項に対する PMDA の公式見解を得る。



- 総合相談： 開発中の品目について、いつ、どのように PMDA に相談すればよいのか、資料を作成する上で基本的に参照すべき通知等はどのようなものか相談する。
- 事前面談： 効率的な対面助言の実施に向けて、相談事項の論点整理及びそれに必要な資料内容を確認する。
- 対面助言： 相談者から提出された資料を、担当審査部の審査チームが精査し、必要に応じて追加のデータや資料を提出した上で、各相談事項に対する PMDA の公式見解を得る。